

部署全体で取り組む学術活動

◎西尾 美帆¹⁾、中島 佳那子¹⁾、西村 はるか¹⁾、辻 佐江子¹⁾、宇城 研悟¹⁾
松阪市民病院¹⁾

【はじめに】

当院は地方にある中小規模の市中病院で、中央検査室における正規職員の臨床検査技師は14名である。一般的に入職後すぐは日常業務以外の学術活動へは自らの意思ではなかなか始められないものである。そこで、当院では入職1年目から技師会への入会はもとより積極的に学会発表の機会を与え、学術活動を若いうちから経験できるようにしている。主は学会発表で、技師会の地方学会、支部学会、全国学会と段階を踏みながら、さらに専門学会へとその幅を広げる。

【当院での学術活動に対する取り組み】

当院では、若手技師を中堅技師が指導し、それを最終的に管理職が指導するスタイルで行っている。発表テーマは中堅技師と管理職が相談して決定し、中堅技師が若手技師の成長具合に合わせてアドバイスをを行う。中堅技師が一旦の完成まで指導し、その後管理職に対してプレゼンテーションを行う。指摘された部分は、中堅技師と相談しながら修正する。

【考察】

当院の取り組み方で、若手技師は学会発表のノウハウを取得し、中堅技師は後輩の「指導」について学ぶことができ、学術活動が人材育成の場にもなっている。また、中央検査室スタッフ全員が学会発表を経験しており、学会発表に対する取り組み方や日常業務を行いながら進める大変さなどを共有できる。さらに平日出張等では残されたスタッフに負担がかかるが、全員がその経験をしていることから、快く送り出すことができる。

なかなか踏み出しにくい最初の一步のきっかけを若手のときから与え、部署全体としてサポートする環境をつくることで、より学術活動に興味をもちやすい環境にあると考えている。そしてさらなるステップへの意思があれば、論文作成、技師会および専門学会の各種認定試験への挑戦、専門学会での学会発表、技師会活動への積極的な参加など、最初の「与えられた機会」からの発展性は本人のモチベーション次第となる。

【まとめ】

当院での学術活動に対する部署全体での取り組みを紹介するとともに、私自身の日常業務以外の活動として、医学論文への投稿に関する経験や現在行っている臨床医の研究用検査の取り組み方などを紹介する。

連絡先：0598-23-1515（内線 240）